

**令和6年度開講科目 講義シラバス**

**理学療法学科  
夜間コース  
4年**

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

**令和6年度 年間予定**  
**理学療法学科(夜間コース)**

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	
前期	入学式 4月4日(木)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	始業 4月8日(月)	
	面談 4月1日(月) ~ 随時		面談 4月1日(月) ~ 随時		
	講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		講義 4月8日(月) ~ 7月19日(金)		
	補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		補講・定期試験期間 7月22日(月) ~ 8月9日(金) 8月13日(火)~15日(木)予備日		
	夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		夏季休業 8月16日(金) ~ 8月31日(土)		
	再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		再試験(対象者のみ) 8月22日(木) ~ 8月30日(金)		
					講義 4月8日(月) ~ 4月19日(金)
後期					臨床実習Ⅲ 4月22日(月) ~ 6月14日(金)
					臨床実習Ⅳ 6月24日(月) ~ 8月30日(金)
					合同就職説明会 6月22日(土)
	講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		講義 9月2日(月) ~ 12月13日(金)		学内就職説明会 9月5日(木)
	補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		補講・定期試験期間 12月16日(月) ~ 12月27日(金) 1月6日(月) ~ 1月10日(金) 1月14日(火)~16日(木)予備日		講義および国家試験対策 9月2日(月) ~ 2月14日(金)
	冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		冬季休業 12月28日(土) ~ 1月3日(金)		第60回 国家試験 2月16日(日)予定
	再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		再試験期間(対象者のみ) 1月22日(木) ~ 1月31日(金)		
臨床実習Ⅰ 2月3日(月)~ 3月1日(土)		臨床実習Ⅱ 2月3日(月) ~ 3月15日(土)		卒業証書授与式 3月4日(月)	
春季休業 3月10日(月) ~ 3月31日(月)		春季休業 3月18日(火) ~ 3月31日(月)			

学校法人 巨樹の会		小倉リハビリテーション学院		理学療法学科		夜間コース		カリキュラム						
分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		4年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活社会の理解	人文科学	心理学			30						30	2	
			統計学						30				30	2
		自然科学	情報処理							30			30	2
			物理学	30									30	2
		コミュニケーション学	基礎教養		30								30	2
			対人関係演習Ⅰ	30									30	2
		対人関係演習Ⅱ		30							30	2		
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学	解剖学Ⅰ	30								30	2	
			解剖学Ⅱ		30								30	2
		生理学	生理学Ⅰ	30									30	2
			生理学Ⅱ		30								30	2
		運動学	運動学Ⅰ	60									60	4
			運動学Ⅱ		30								30	2
	運動学演習Ⅰ		30									30	2	
	運動学演習Ⅱ			30								30	2	
	人間発達学	人間発達学			30							30	2	
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーションの基礎	リハビリテーション基礎医学Ⅰ	30									30	2
			リハビリテーション基礎医学Ⅱ		30								30	2
		臨床医学総論	医学概論		30								30	2
			病理学概論			30							30	2
		臨床医学各論	整形外科学			30							30	2
			内科学			30							30	2
	神経内科学				30							30	2	
	臨床心理学						30					30	2	
	精神医学					30					30	2		
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーションと理学療法Ⅰ	30									30	2		
	リハビリテーションと理学療法Ⅱ	30									30	2		
専門分野	基礎理学療法学	理学療法学	基礎理学療法学Ⅰ		30							30	1	
			基礎理学療法学Ⅱ			30						30	1	
			生活機能演習					30				30	1	
	理学療法管理学	臨床運動学	臨床運動学演習Ⅰ			30						30	2	
			臨床運動学演習Ⅱ				30					30	2	
	理学療法評価学	理学療法管理	理学療法管理学						30			30	2	
			基礎評価学演習Ⅰ		60							60	2	
		理学療法評価学	理学療法評価学	基礎評価学演習Ⅱ			60					60	2	
				基礎評価学演習Ⅲ			60					60	2	
		疾患別理学療法学	運動療法学	臨床評価学演習Ⅰ		30							30	1
				臨床評価学演習Ⅱ			30						30	1
			物理療法学	運動療法学演習				60					60	2
				物理療法学				30					30	1
			日常生活活動学	日常生活活動学演習Ⅰ			30						30	1
				日常生活活動学演習Ⅱ				30					30	1
	義肢装具学		義肢学					30				30	1	
			装具学						30			30	1	
	理学療法治療学	理学療法総合学習	中枢神経疾患の理学療法学Ⅰ				60					60	2	
			中枢神経疾患の理学療法学Ⅱ					60				60	2	
			運動器疾患の理学療法学Ⅰ					60				60	2	
			運動器疾患の理学療法学Ⅱ						60			60	2	
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅰ						60			60	2	
			内部障害系疾患の理学療法学Ⅱ							60		60	2	
			小児疾患の理学療法学				30					30	1	
			理学療法学技術演習Ⅰ						60			60	2	
			理学療法学技術演習Ⅱ							60		60	2	
			理学療法学総合学習Ⅰ								60	60	2	
	理学療法学総合学習Ⅱ								60	60	2			
	理学療法学総合学習Ⅲ								60	60	2			
	地域理学療法学	地域理学療法学					30				30	2		
	臨床実習	臨床実習	臨床実習Ⅰ		45							45	1	
			臨床実習Ⅱ						45			45	1	
			臨床実習Ⅲ							360		360	8	
			臨床実習Ⅳ							450		450	10	
	基礎分野				60	60	30	0	0	60	0	0	210	14
	専門基礎分野				240	180	150	60	0	0	0	0	630	42
専門分野				0	120	120	330	300	300	30	180	1380	51	
実習				0	45	0	0	0	45	810	0	900	20	
前期・後期小計				300	405	300	390	300	405	840	180			
前後期合計				705		690		1245		3300		3120	127	

\* 基礎分野：講義15～30時間1単位

\* 専門基礎分野：講義・演習5～30時間1単位  
実習30～45時間1単位

\* 専門分野：同上

\* 臨床実習：40～45時間1単位

### Ⅲ. 理学療法学科専門分野

講義科目	理学療法管理学		
担当講師	理学療法学科 教員		授業時間数 30
開講年次	夜間コース	理学療法学科 4年前期	単位数 1
教育目標	理学療法の職場管理学において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学ぶ。		
No	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	理学療法管理、倫理、教育	理学療法管理、倫理、教育について復習、確認を行う。	
2	理学療法の実施と対価	診療報酬・介護報酬・補装具の給付、貸与について説明できる。	
3	理学療法の実施後の管理	診療記録と書類管理(電子カルテ、リハビリテーション総合実施計画書などを含む)について説明できる。	
4	理学療法の実施における他職種との業務調整	理学療法実施における、処方内容の確認や他職種への申し送り、多職種連携とカンファレンスについて説明できる。	
5	理学療法機器の管理	理学療法機器の保守点検・安全管理、配置計画について説明できる。	
6	人事考課	職員採用・昇格審査について説明できる。	
7	労務管理	勤務時間・休暇管理について説明できる。	
8	理学療法倫理①	コンプライアンス・法令違反・ハラスメントについて説明できる。	
9	理学療法倫理②	①医療広告ガイドラインについて説明できる。 ②対象者・他職種との利害衝突、コンフリクトマネジメントについて説明できる。	
10	理学療法士国家試験	①理学療法士国家試験の出題基準について説明できる。	
11	診療参加型実習	①理学療法士養成における臨床実習の到達目標について説明できる。 ②診療参加型実習について説明できる。	
12	臨床実習前後の評価	臨床実習前後の評価(OSCE等)について説明できる。	
13	臨床教育の方法	メンター制、プリセプター制について説明できる。	
14	生涯学習制度	①生涯学習制度について説明できる。 ②理学療法に関する職能団体とその役割を説明できる。	
15	理学療法士のキャリア開発の実際	①理学療法士におけるキャリア開発の実際がイメージできる。 ②キャリア開発の必要性を説明できる。	
教科書	書籍名		著者
	PTOTビジュアルテキスト リハビリテーション管理学		齋藤昭彦
参考 図書等	PT・OTのための臨床技能とOSCE		才藤栄一
授業 方法	講義	成績評価方法	定期試験にて判断する。
履修上の 注意	予習、復習に努め自主的に学習して下さい。		

講義科目	理学療法学総合学習 I				
担当講師	理学療法学科 教員		授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 4年後期	単位数	2	
教育目標	①臨床実習の経験を元に、評価学分野、中枢系分野、運動器系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。				
No	講義計画	行動目標(学習目標)	No	講義計画	行動目標(学習目標)
1	オリエンテーション①	①国家試験に合格するために必要な知識・技術を確認する ②国家試験の概要と学習方法を理解する ③学習計画を作成する	16	中枢系分野⑥ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する(グループ学習) ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	オリエンテーション②		17	中枢系分野⑦ 思考過程の統合	
3	評価学分野① 基礎知識の整理		18	中枢系分野⑧ 思考過程の統合	
4	評価学分野② 基礎知識の整理		19	中枢系分野⑨ 思考過程の統合	
5	評価学分野③ 基礎知識の整理		20	中枢系分野⑩ 思考過程の統合	
6	評価学分野④ 基礎知識の整理		21	運動器系分野① 基礎知識の整理	
7	評価学分野⑤ 思考過程の統合		22	運動器系分野② 基礎知識の整理	
8	評価学分野⑥ 思考過程の統合		23	運動器系分野③ 基礎知識の整理	
9	評価学分野⑦ 思考過程の統合		24	運動器系分野④ 基礎知識の整理	
10	評価学分野⑧ 思考過程の統合		25	運動器系分野⑤ 基礎知識の整理	
11	中枢系分野① 基礎知識の整理		26	運動器系分野⑥ 思考過程の統合	
12	中枢系分野② 基礎知識の整理		27	運動器系分野⑦ 思考過程の統合	
13	中枢系分野③ 基礎知識の整理		28	運動器系分野⑧ 思考過程の統合	
14	中枢系分野④ 基礎知識の整理		29	運動器系分野⑨ 思考過程の統合	
15	中枢系分野⑤ 基礎知識の整理		30	運動器系分野⑩ 思考過程の統合	
教科書	書籍名		著者		出版社
参考図書等	随時提示を行う				
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。(定期試験はマークシート形式)	
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。				

講義科目		理学療法学総合学習Ⅱ					
担当講師		理学療法学科 教員		授業時間数	60		
開講年次		夜間コース	理学療法学科 4年後期		単位数	2	
教育目標		①臨床実習の経験を元に、内部系分野、小児・発達系分野、心理・精神系分野における専門基礎科目・専門科目の知識と思考過程の統合を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。					
No.	講義計画	行動目標（学習目標）		No.	講義計画	行動目標（学習目標）	
1	内部系分野① 基礎知識の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る		16	小児・発達系分野⑥ 思考過程の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する（グループ学習） ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	
2	内部系分野② 基礎知識の整理			17	小児・発達系分野⑦ 思考過程の統合		
3	内部系分野③ 基礎知識の整理			18	小児・発達系分野⑧ 思考過程の統合		
4	内部系分野④ 基礎知識の整理			19	小児・発達系分野⑨ 思考過程の統合		
5	内部系分野⑤ 基礎知識の整理			20	小児・発達系分野⑩ 思考過程の統合		
6	内部系分野⑥ 思考過程の統合			21	心理・精神系分野① 基礎知識の整理		
7	内部系分野⑦ 思考過程の統合			22	心理・精神系分野② 基礎知識の整理		
8	内部系分野⑧ 思考過程の統合			23	心理・精神系分野③ 基礎知識の整理		
9	内部系分野⑨ 思考過程の統合			24	心理・精神系分野④ 基礎知識の整理		
10	内部系分野⑩ 思考過程の統合			25	心理・精神系分野⑤ 基礎知識の整理		
11	小児・発達系分野① 基礎知識の整理			26	心理・精神系分野⑥ 思考過程の統合		
12	小児・発達系分野② 基礎知識の整理			27	心理・精神系分野⑦ 思考過程の統合		
13	小児・発達系分野③ 基礎知識の整理			28	心理・精神系分野⑧ 思考過程の統合		
14	小児・発達系分野④ 基礎知識の整理			29	心理・精神系分野⑨ 思考過程の統合		
15	小児・発達系分野⑤ 基礎知識の整理			30	心理・精神系分野⑩ 思考過程の統合		
教科書	書籍名		著者		出版社		
参考図書等	随時提示を行う						
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。（定期試験はマークシート形式）			
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。						

講義科目	理学療法学総合学習Ⅲ				
担当講師	理学療法学科 教員		授業時間数	60	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 4年後期	単位数	2	
教育目標	①臨床実習の経験を元に、国家試験出題範囲全ての専門基礎科目・専門科目の知識の統合と思考過程の整理を図り、国家試験合格に必要な総合的学力をつけることを目標とする。				
No	講義計画	行動目標(学習目標)	No	講義計画	行動目標(学習目標)
1	知識の統合	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する(グループ学習) ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る	16	思考過程の整理	①国家試験問題を解き専門基礎分野、専門分野の知識を確認する(グループ学習) ②専門実地の問題を専門基礎、専門一般の知識を用いて解説する ③小テストを受け苦手分野を把握する ④すでに学習している領域の点数が低い場合は、原因を検討し再習得を図る
2	知識の統合		17	思考過程の整理	
3	知識の統合		18	思考過程の整理	
4	知識の統合		19	思考過程の整理	
5	知識の統合		20	思考過程の整理	
6	知識の統合		21	思考過程の整理合	
7	知識の統合		22	思考過程の整理	
8	知識の統合		23	思考過程の整理	
9	知識の統合		24	思考過程の整理	
10	知識の統合		25	思考過程の整理	
11	知識の統合		26	思考過程の整理	
12	知識の統合		27	思考過程の整理	
13	知識の統合		28	思考過程の整理	
14	知識の統合		29	思考過程の整理	
15	知識の統合		30	思考過程の整理	
教科書	書籍名		著者		出版社
参考図書等	随時提示を行う				
授業方法	グループ学習および個人学習を中心とする必要に応じ講義を行う		成績評価方法	定期試験を総合し評定する。(定期試験はマークシート形式)	
履修上の注意	本科目は、自己の到達点と課題を明確にできる貴重な場であり個人の積極的な学習への取り組みが求められる。特に、他者に教えることでさらに知識・理解が深まるので、積極的な知識や思考過程の表出に努めること。				



講義科目	臨床実習Ⅲ(評価実習)					授業時間数	360
担当講師	川上 留理子 坪田 和英 奥之山 峻				授業時間数	360	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 4年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	8	
教育目標	①対象者を尊重し、共感的、傾聴的態度をもって接することができる ②職場における理学療法士・作業療法士の役割と責任について理解する ③理学療法・作業療法における臨床評価の流れを経験し、理解する ④指導者の監視下において、学生により実施されるべき項目の検査・測定およびリスク管理や観察を実践することができる						
講義計画(講義内容を含む)							
<b>【評価実習の概要】</b> 実習施設の理学療法・作業療法診療に参加し、臨床実習教育者からの指導を通じて、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。また、臨床教育者の指導のもとに情報収集や観察、対象者に適した評価を見学から模倣、実施を経験することで学内で学んだ知識と実技を統合する。							
<b>【行動目標】</b> ①理学療法士・作業療法士としての基本的資質を習得する ②医療従事者として思慮深く考え、責任ある言動をとることができる ③学内で学んだ原理知識を臨床場面で活かすことができる ④問題意識をもって知識を深めることができる ⑤臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な検査・測定、評価を理解できる ⑥臨床実習教育者の指導の下、原理・原則を理解し安全な介入技術を理解できる ⑦検査・測定、評価、介入技術において必要な準備ができ、リスク管理について理解できる							
教科書	書籍名		著者		出版社		
参考図書等							
授業方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う		成績評価方法	・情意領域 ・認知チェックリスト ・経験チェックリスト より評定する。			
履修上の注意	別途実習の手引きを把握して臨むこと 臨床実習施設の規定を遵守すること						

講義科目	臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)					
担当講師	川上 留理子 坪田 和英 奥之山 峻			授業時間数	450	
開講年次	夜間コース	理学療法学科 4年前期	実務経験	総合病院において理学療法士としての実務経験あり	単位数	10
教育目標	臨床実習指導・監督の下で、典型的な障害特性を呈する対象者に対して、 ①臨床教育者の理学療法・作業療法の臨床思考過程を説明し、理学療法・作業療法の計画立案ができる ②臨床教育者に許可された臨床技能を実施できる					
講義計画(講義内容を含む)						
<p><b>【総合実習の概要】</b>  臨床実習Ⅳは、総合臨床実習の位置付けで、実習前評価・臨床実習・実習後評価で構成している。  実習前評価は、感染症対策および医療安全管理・個人情報保護の重要性を学習する。  また、実習前の準備として、医療面接および評価・治療・技術および基本的臨床技能を確認するために、学内で知識評価と実技試験を診断的評価として実施する。  実習施設では、診療参加型実習として臨床実習教育者からの指導を通して、理学療法士・作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。また、臨床実習教育者の指導の下、情報収集や観察・対象者に適した評価の見学、模倣、実施を通して経験を積み上げていく。また、得られた検査結果の解釈を行い、問題点の抽出、治療目標・治療計画を立案する一連の流れについてより具体的に経験・学習する。  実習後評価は、実習施設で経験した内容をもとに、自己の思考をまとめて、臨床実習経験報告会という機会を設けて、プレゼンテーションを実施する。</p> <p><b>【実習前後評価の概要】</b>  <b>実習前評価</b>  臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)前に、実習に臨む学生の情意領域、認知領域、精神運動領域について、学生の準備状態を把握し、実習施設での指導計画を立案するために行う。  ・情意領域...学校生活の状況  ・認知領域...知識試験の実施  ・精神運動領域...技能試験(OCSE)の実施  <b>実習後評価</b>  臨床実習Ⅳ(総合臨床実習)終了後に、実習生の学習を総括的に評価するために行う。  ・臨床実習経験報告会の実施</p> <p><b>【行動目標】</b>  ①臨床実習Ⅲの目的を基底とする  ②臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、仮設の立案・立証ができる  ③臨床実習教育者の指導の下、理学療法・作業療法における治療計画立案のために、得られた結果について解釈し、優先性を踏まえて統合することができる  ④臨床実習教育者の指導の下、対象者の生活像を想定した目標を設定し、整合性のある治療介入プログラムを立案できる</p>						
教科書	書籍名		著者		出版社	
参考図書等						
授業方法	臨床現場において診療参加型の実習を行う 臨床実習指導者による管理下で行う		成績評価方法	・情意領域 ・認知チェックリスト ・経験チェックリスト ・経験報告会 を全て総括して評定する		
履修上の注意	別途実習の手引きを把握して対応すること 臨床実習施設の規定を遵守すること					